

どこか行かないよう常に制止しても、激しく抵抗するA。厄介な子としか思われず、私も馴染めないのではと不安に思いながらも、Aの一番の理解者になろうと3年前に入園しました。先生達に叱咤激励され、受け止められ、ママ達に愚痴を聞いてもらううちに、楽しくなりました。全力の切り切り遊びの激しいAに、いつも向き合ってもらいました。楡式の療育を上手くAに合わせてくれ、年長でグッと落ち着きました。Aから手をつないでくれるようになり、Aの手の温かさを感じ、同じ速度で歩けることを親として幸せに感じ、3年前の決断は正しかったと思っています。今後、Aに大きな壁が立ちただかっても、これを土台として前進していきます。

3年間悩み続け、就学前の最後の1年、親子で頑張ってみようという大決心をしましたが、もっと早くから来ていれば良かったです。これからずっとBと生きていくための基礎が作れたと感じます。何よりBが思った以上に成長してくれました。トイレが完璧に、ことばで頼んだことをしてくれるようになりました。簡単なものならことばで伝えてくれ、その数もどんどん増え、ホッペを突きながら「お母さん」と言ってくれます。先生方が、Bにも私にも優しく付き合ってくださいましたこと、沢山の時間を親子で過ごしたことが、こんなにもBの力になったのだと、驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。

豆遊び、お絵かき、スライム、『だるまさんが転んだ』やかくれんぼ、みんなと色々なことをして過ごすうち、狭いと感じたクラスは果てしないエネルギーを持った空間になりました。沢山の輝きや喜び、眩いばかりの可愛い笑顔がいっぱいあり、名前の通り『きらめきの里』だと思いました。ひた向きに子どもに寄り添ってくださる先生方には、感謝しきれません。親も子も活き活きと過ごすことが出来ました。苛立ちを『好いこと作り』の魔法で喜びに代えられると学べたのは、とても有意義でした。これから先迷う時、悩む時、『きらめきの里』を思い出すと、踏ん張って乗り越えていけそうな気がします。

卒園保護者の声

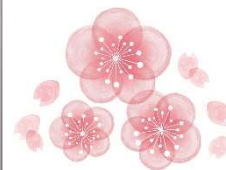
社会福祉法人 楡の会
児童発達支援センター
きらめきの里

突然の転勤。ネットで見つけた楡の会に受け入れていただきました。共に悩み、成長を喜び、沢山の愛情を与えていただき、かけがえのない1年となりました。仲良く遊んでくれたクラスのお友達、ありがとう。何も知らない土地への引っ越しでとても不安でしたが、親子揃って明るく元気な方達ばかりで、楽しく通うことが出来ました。楡の先生方とお会いできたこと、そして、沢山の素晴らしい思い出を、ありがとうございました。

2歳で通い始めた頃は、じっと座っていることが多い大人しい男の子でした。単独が始まってから自信がついたようで、自立心や好奇心が少しずつ強くなっていきました。年長さんになった頃には、一人で出来ることが増え、今ではとても元気に走り回り、イタズラをするやんちゃな子へと、母も驚く成長をしてくれました。赤ちゃんの頃は「免疫力が弱いので、人混みは避けるように」と言われたのに、体も丈夫になり、4年間、ほとんど休まずに通うことが出来ました。心身共にここまで遅く成長できたのは、皆さまに沢山の愛情をかけていただいたお陰だと思えます。ありがとうございました。

約6年にれっ子として、沢山の先生方に可愛がられ、伸び伸び成長しました。沢山抱っこして“ママが全て”から“Cの世界”が広がりました。叩いてきた後に優しいC、いつもドキドキのC、小さい子に優しく出来るようになったC、色んなCを見て、たっぷり関わることが出来て、大変さもあったけど、幸せな時間でした。色々なことが起こっても、乗り越える力は身に付いているはずなので、一緒に頑張っていきます。楡での経験で私の世界も広がり、私の財産になりました。本当にありがとうございました。

初めての集団生活にドキドキの4年前は、双子をずっと抱っこしながら母子通園。とにかく泣くか喚くかで、活動をちゃんとできない2人を見て、私まで泣きそうに。先生達に励まし、私の気持ちを受け止め、双子育児の大変さを共感してもらいました。お母さん達とは楽しい話で盛り上がり、みんなに支えられ、とても充実した1年を過ごしました。次の年、Dの自我が目覚め、上手く気持ちが切り替えられず、行事も怖くて参加できず、睡眠リズムが崩れて夜も寝ない日々が続き、とにかく母的には辛い1年で、担任の先生に泣きついて、話を聞いてもらっていました。次の年、今度はEが大きな体全体で自己主張。色々な経験をしてきたので、とことん付き合おうと臨んだ最後の1年。見通しを持って落ち着いて行動できることが増え、怖がっていた行事にも自ら進んで参加するなど、担任の先生と2人が出来るようになったことを報告し合うことがとっても楽しく、嬉しい年になりました。この4年間、母子ともに安心して、本当に楽しく過ごすことが出来ました。そして、今まで一緒にあったママ達にも本当に感謝しています。まだまだ手のかかる2人ですが、成長を見守っていきたいと思います。



1歳になる前からヘルパーとリハビリでお世話になり、3歳から2年間、居宅訪問療育を経て、小学校入学を目標に仲間に入れていただきました。いつ心臓や呼吸が止まるか分からない生活の中、Hの楽しい、出来ることが少しずつ増え、表情や仕草、体全体で自分の感情を伝えようとする姿に感動する毎日でした。この1年は、Hにとっても、私たち家族にとっても、大変有意義でした。皆さま方に、心から感謝申し上げます。



人見知りの私は母子通園に抵抗があったものの、頑張ろうと決意しました。目の見えない子はFだけで不安しかなく、毎回泣く姿を見て、何度心が痛んだか分かりません。でも、先生たちは試行錯誤しながら、毎日一生懸命接してくれ、まだまだ先だと思っていたお姉さんになったFに、こんなに早く会えました。嫌いだった感触遊びも楽しめるようになり、椅子に座ってられるようになり、多少待てるようにもなりました。泣き叫び、自傷を繰り返したこともありましたが、思いを受け止めてあげることで、落ち着くことが出来るようになりました。あんなに嫌だったのに、今では母子で良かったと思えます。今ではきらめきに来て良かったと思っています。Fのことや兄弟のことで悩んだ時、先生たちは親身になって援けてくださいました。4年間、本当にお世話になりました。

私たち家族は5年前、暗闇の中で人との関りを拒絶しているようでした。入院が多く、この子は長く生きることが出来ないのではないかと不安でした。成長しているのかハッキリと分からず、心配でした。そんな時、楡に関わる皆さまが道標を作ってくれました。どんな時でも明るく、分け隔てなく接していただき、この5年で沢山成長し、食べる喜び、お友達と接する喜び、笑う喜び、沢山の喜びを貰いました。私たちは、更に前に進むことが出来ます。彼と進む道は、困難で険しい道が続くでしょう。ですが、5年前の暗闇ではなく、“この先には光がある”、そう信じて前に進んでいきます。この度は、本当にありがとうございました。



妊娠9か月で病気が分かり、生まれてすぐNICUに入院。沢山のチューブに繋がれた小さなGを初めて抱っこした時、健康に生んであげられなくて、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。入院中に「寝たきりの可能性が高い、親と理解することもないだろう」と言われ、絶望しました。不安な毎日でしたが、Gは沢山の成長を見せてくれました。自分でご飯を食べ、歩けるようになり、人と関わるのが大好きで、笑ったり、泣いたり、怒ったり、色々な表情を見せてくれ、家族の名前を呼んでくれます。皆さんが、Gの持っていた成長の種に、沢山の愛情をかけてくださったお陰だと思っています。私も沢山助けていただいたことで、今親子として一緒に暮らせています。本当にありがとうございました。これからも、Gの一番のサポート役でありたいと思います。また困った時や辛くなった時は、ぜひ話を聞いてください。3年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

